

第11回合同実践報告会のご案内

テーマ：滋賀県における「重症児者等の地域包括支援ネットワーク」づくりに向けた取り組み

～ その視点から、びわこ学園の各事業と自分たちの行う支援の役割を考えてみる～

お待たせいたしました！毎年恒例の合同実践報告会は、今年で11回目を迎えます。

講演の部は、びわこ学園元職員 松本 哲さんをお迎えし、『滋賀県における「重症児者等の地域包括支援ネットワーク」づくりに向けた取り組み』をテーマにお話しいたします。両センターが開所して20年が経過し、地域・在宅支援にかかるニーズも多様化しています。これまでびわこ学園が実施していた各事業を通し、現行の制度や社会資源はそのことに応えられるものとなっているのか。そして、地域事業に携わるわたしたちは、当事者、そして、ご家族のねがいによりそうことができているのでしょうか。講演内容をふまえ、やりとりを交えながら意見交換ができることを期待しております。

実践報告の部は、生活介護と相談課から4題の報告があります。当事者にとって社会参加の拠点となる日中活動の場での取り組みのようすや相談員が要となって多職種をつなぎ、地域生活を支える実践について共有し、意見交換ができることを目指します。みなさまのご参加をお待ちしております。

■日時 2024年3月23日(土) 13:00～16:40

■開催方法 オンライン研修(当日ライブ配信)

■参加料 無料

■お申込み方法 ご案内のQRコード、あるいはホームページよりお申込みください。

★申し込み締め切り

2024年3月20日(水)



*開催前日(22日)にお申込みいただいた方に視聴URLを登録したメールをご案内します。お申込み後、当日になっても事務局より返信がない場合は、お電話にてご確認くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

知的障害児者地域生活支援センター 077-527-0494(飯田)

びわこ学園障害者支援センター 077-585-8040(武居)

～プログラムおよび内容～

開会の挨拶 13:00～

講演の部 13:10 ～ 14:55 * ディスカッションの時間も含む

テーマ：『 滋賀県における「重症児者等の地域包括支援ネットワーク」づくりに向けた取り組み
～ その視点から、びわこ学園の各事業と自分たちの行う支援の役割を考えてみる～ 』

講師 松本 哲さん （元 びわこ学園職員・法人事務局長）

経歴/プロフィール：第二びわこ学園（現 びわこ学園医療福祉センター野洲）児童指導員、病棟課長、地域事業部長、
第二びわこ学園移転新築時の担当室長などを経て、法人事務局長を長く担当された

実践報告の部 15:05

□報告1 「12年間の訪問教育を卒業し、生活介護へ通所出来るようになったA氏」

かなえ（生活介護事業所）

概要：学校での受け入れが困難であったことより訪問教育を受けていた。学校卒業に伴い通所施設へ通うようになった。週1回から通所利用開始し、現在では週3回ほとんど休むことなく通所出来ている。この事例の中で取り組んだ実践について報告する。

□報告2 「訪問型生活介護(モデル事業)の取り組みについて」

知的障害児者地域生活支援センター ひまわりはうす

概要：「ひまわりはうす」は、引きこもり状態の方への訪問支援を行っており、2022年からは「訪問型生活介護」を開始した。本報告では、発達障害の男性に焦点を当て、支援の経過を報告する。

□報告3 「医ケア児が地域の小学校に入学するにあたっての、相談支援としての取り組み」

びわりん（重症児者相談支援センター）

概要：実際に初めて医療ケア児を受け入れる学校への福祉側のアプローチや放課後の過ごし、その後の経過。手探りで日々取り組んでいる、現場の生の声を発信したい。

□報告4 「強度行動障害を呈するAさんが持っている力を発揮するための環境整理」

知的障害児者地域生活支援センター さくらはうす

概要：行動障害を呈するAさんの支援事例では、環境整備や言語化により、彼女の動機や意図を理解し、日課に活かすことで自律性が向上した。本人理解を深め、強みを活かす支援が有効であることが示された。

閉会の挨拶 終了16:35